

## サムラカワチノカミ・・・ん？

「全聾の作曲家」「現代のベートーベン」と知る人ぞ知る存在だったらしい。ワタシはまったく知らなかったが、また興味もなかった。

最初に見たのが活字だったので、表題のように読んで、えらい時代がかった名前の人やな、と一瞬思ったが、そんなはずはないだろうとも思った。まさかサムラゴーチ・マモルと読むとは思わなかった。

それにしても全聾の人が、一定の期間が過ぎれば、あのよう「完全」に聴こえるようになるなどということは寡聞にして知らない。ゴーストライターがいたわけであるが、この人の精神状態も理解できない。著作権などで裁判沙汰になることが往々にしてあるからである。そもそも、自分の作曲した曲を他人に譲るという発想が理解できない。余程の弱みをにぎられていたのか、話題性で売ろうとしたのか？

河内守が、記者会見で応答しているところを少し聞いたが、「この人の聴力はまったく正常である。」と思った。なぜなら、みなさんが経験しているところであるが、耳の遠い人の声は大きくなるのが普通だからである。ところが、この河内守の発語は十分に抑制が利いていて、大声で話すなどということがなかったからである。つまり、自分の耳で、自分の声（音量）の調節をするからである。この人の耳が聴こえないはずがない！

電車や公の場で大声でしゃべっている女の子やおばちゃんたちの大声とは質が違う。彼女らは、単に「羞恥心が欠けている」だけである。家庭の事情まで聴く気もないのに聞かされるのは迷惑以外の何者でもない。家庭の躰の問題であるが、その躰をするべき母親の躰ができていないということは、由々しき問題である。電車の中で、物を頬張るのも躰が悪いのであるが、母親から率先してこれをしている。恥ずかしいものにもあったものではない。平気な顔をしている。**馬鹿です**、と周囲の人間に宣告しているようなもの。

それはともかく、河内守の耳が聴こえなくなったのは、まさかに耳垢がたまっていたわけではないだろうな。もしそうなら、**心身ともに不潔な人**や。

話はまったく変わるが、4月22日の夜の報道で、マンチェスター・ユナイテッドの監督が解任されたという。香川の話は、監督論の中で触れたが、じつはあの文章はこの1月か

2月か、香川が干されていたときに書いたもので、「負けるな、腐るな、香川選手」と応援したいことから書いたものである。この欄に掲載したのは、4月14日か15日のことである。……この3月4月になって香川を使い出したが、いまさらひとりの力でどうなるものでもない。人種差別のようなものがあつたのかも知れない。それなら、この監督は、品性下劣で、選手の能力を判断する力がなかつたということであり、更迭やむなし、である。イタリアでの4~5試合勝てなかつたら、すぐに監督更迭という例をもちだすまでもなく、単に予測どおりになつただけのことである。

ボクには以前からこんなことがたびたびあり、診療の場でもときに自ら驚くことがある。たとえば、まったく何の症状もない人に、自分の周囲の人が前立腺癌にかかっている、念のため、調べてみませんか。で、結果は明らかな癌で、早めの治療だったので治ってしまった、とか、誰もチェックしなかつた人に、念のため胃カメラをしたらどうでしょうか？ ウン、やっておくか、と検査を受けたら、阪大病院でも年に1回か2回あるかないかの大手術で、食道がんが治つた。……誰にでも言っているわけではない。……あるいは、3年前の「今一番心配していること」の中で、「……これに天災地変でも起これば、拱手傍観してオロオロするだけだろう」と下書きに書いていた。ただ1995年の阪神大震災を経験してあの悲惨さを知っているため、本文には書けなかつた。あの時も社会党政権下だった。そして2ヵ月後の3.11の大地震・大津波、さらには、原子力発電所の事故である。……神戸をはるかに上回る広範囲かつ甚大な被害である。神戸は人口も多く、山陽道の要所である。復帰は比較的早かつたが、それでも何年もかかつた。東北は僻地でもあり、復興は遅々として進まない。

「予言」とかそういうものではなく、流れをみていると当然の帰結だという、単なる「予測」である。

2014.04.23.